

米作りでヘアリーベッチ いつ播く？どう育てる？

～南丹地域の事例から学ぶ緑肥活用～

○水稲栽培に導入する場合のヘアリーベッチ栽培ごよみ

	8月		9月		10月			11月			～	3月			4月			5月			6月
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	～	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
全域	は種						～						すき込み	～			田植え				
5月下旬 田植え							は種	～						すき込み	～			田植え			

○水稲品種毎の上限窒素量

品種名	コシヒカリ	キヌヒカリ	京の輝き
窒素施肥量(kg/10a)	7～8 (倒伏に注意)	8～9	12

○ヘアリーベッチを活用した水稲栽培のポイント

①排水対策(畝立て、溝切り)

排水が不良な条件では十分な生育が見込めません。

特に生育初期は湿害の影響を受けやすいため、排水対策を徹底してください。

②適期は種(上記栽培ごよみを参照)

③覆土は必須

鳥害の回避、土壌水分の保持が目的です。※

※稲刈り前には種すると、収穫後の稲わらが覆土代わりにになります。

※粗く耕起し、土塊の隙間には種しても、覆土代わりにになります。

④目標草量に近づいたら刈り取り、2週間後に入水する

倒伏防止のために50cm×50cm四方の生草量(kg)×8が上限窒素量(kg/10a)を超えないように刈り取りましょう。ガス湧き防止に入水までの間隔を空けましょう。

【優良事例①】京の輝き(京丹波町市場)での緑肥活用

は種日:9月中旬 は種量:4kg/10a

品種:ハングビローサ(雪次郎)

は種時期:OK!

排水対策:OK!

排水条件:OK!

覆土:OK!

取組内容

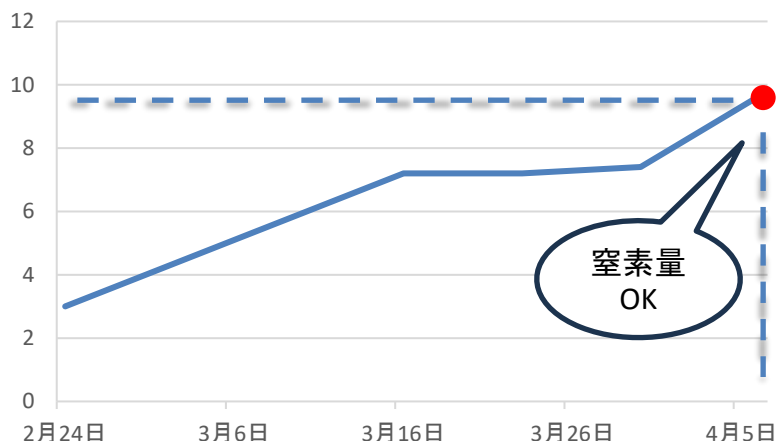
秋まき適期間内
→8月下旬~10月下旬

ほ場の排水性が良く、
未実施

排水良好

稲刈り時の稲わらが
覆土代わり

推定窒素量(kg/10a)



【すき込み・田植えの目安】

4/6頃に京の輝きに
必要な窒素量(約9.6kg)まで
生育!

→4/6にすき込み後、
2週間後に入水しても
5月上旬の田植えに
間に合います!

【優良事例②】キヌヒカリ(南丹市日吉町)での緑肥活用

は種日:9月中旬 は種量:5kg/10a

品種:ハングビローサ(雪次郎)

は種時期:OK!

排水対策:OK!

排水条件:OK!

覆土:OK!

取組内容

秋まき適期間内
→8月下旬~10月下旬

ほ場の排水性が良く、
未実施

排水良好

粗く耕起し、
土塊の隙間には種

推定窒素量(kg/10a)



【すき込み・田植えの目安】

3/24頃にキヌヒカリに
必要な窒素量(約8kg)まで
生育!

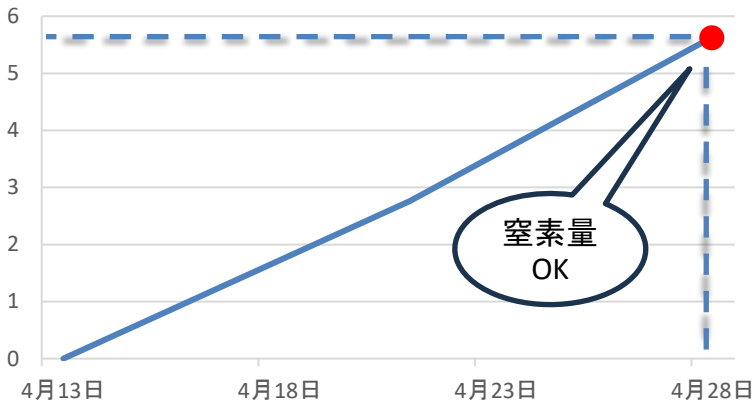
→3/24にすき込み後、
2週間後に入水しても
5月上旬の田植えに
間に合います!

【優良事例③】コシヒカリ(亀岡市東本梅町、5月下旬以降田植え)での緑肥活用

は種日:11月中旬 は種量:3kg/10a
 品種:マッサ(藤えもん)

	は種時期:OK!	排水対策:OK!	排水条件:OK!	覆土:OK!
取組内容	秋まき適期間内 →11月上中旬 (田植えが遅いため)	ほ場の排水性が良く、 未実施	排水良好	粗く耕起し、 土塊の隙間 には種

推定窒素量(kg/10a)



【すき込み・田植えの目安】
 4/28頃にコシヒカリで
 十分な窒素量(約5.6kg)まで
 生育!

→4/28にすき込み後、
 2週間後に入水しても
 5月下旬の田植えに
 間に合います!

【生育が確保できなかった事例】



2026/3/27



2026/3/27



2026/4/6

①排水条件が悪いが、排水対策(畝立て、
 溝切り)を行わなかった。
 →滞水部分に発芽不良が発生。

②覆土を行わず、種子が露出した。
 →種子は根が張れず、生育しなかった。

③は種が適期より遅れた(11月下旬は種)
 →発芽不良でほ場を雑草が優占した。

○ヘアリーベッチのは種方法

[ほ場排水性が良い場合]

→稲刈り前の水稲立毛間は種を実施

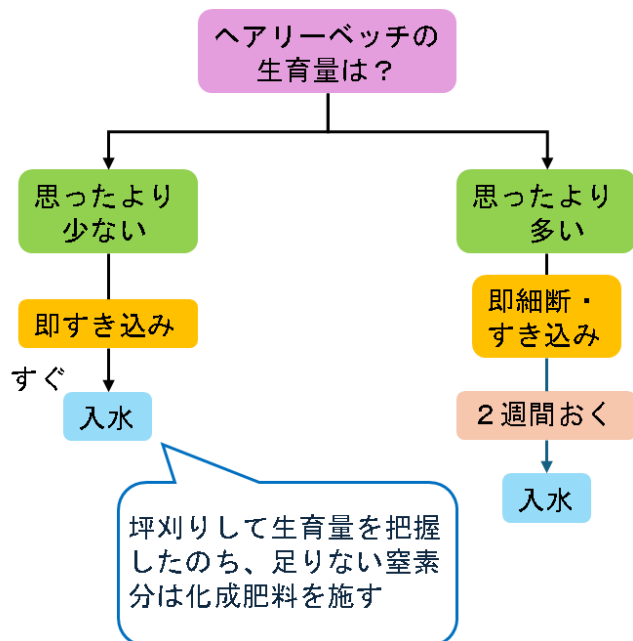
- ・稲刈りの2～3日前、水稲立毛間に動力散布機等で、均一には種します
(稲刈り時のコンバインから排出される稲わらが覆土の代わりになります)
- ・通常は種量の1.5倍量をは種します

[ほ場排水性が悪い場合]

→稲刈り後のは種を実施

- ・粗く耕起した後に、土塊の上からは種しましょう
(土塊の間に種子が入り込み、覆土の代わりになります)
- ・排水溝を設置する

○ヘアリーベッチの生育量が多い、少ない場合の対応策



以下の場合モア等で細断してすき込みましょう。

ロータリーに絡まる恐れがあります！

- ・すき込み時のトラクターが20馬力以下
- ・草丈が30cm以上に伸びている



モアで細断中 2026/4/9

緑肥の活用を考えている方は南丹農業改良普及センターまでご相談ください！

電話番号 0771-62-0665 担当:岩橋、北尾

ホームページ <https://www.pref.kyoto.jp/nantan/no-nokai/>